

19/7/22 大村秀章愛知県知事定例記者会見 名古屋城部分

(名古屋市民オンブズマンによる半自動文字起こしアプリによる文字起こし)

記者：中日新聞の谷と申します。

先週の知事会見で知事が名古屋城の関係で発言をされたことを受けまして、河村名古屋市長がその後に囲み取材をしたんですけれども、知事がこの間いろんな意見を聞いていらっしやることのそれは誰から聞いた時からことであるか明らかにすべきだという趣旨の主張を名古屋市長はしているんですけれども、特段知事の方でそれに対してお答えになるようなご用意があればお聞かせ願いたいと思うんですけれども

大村知事：あの、特にコメントすることはありませんがそういう発言すること自体がですね、ずれてると思いますね。

誰が何を言ったかってあの人すぐそういうこと言うけどそんなことじゃない。

許可が下りるのかってことなんですよ。

誰かが何を言ったじゃないんですよ、これこういうことでその行政っていうのはですね、筋道とか手順とかあるのでそのことをちゃんとクリアしているんですかということなんですよ問われているのはね、誰が何言ったなんて関係ないですよみんなそう言うんですだから、それを役所の人は同じこと言うんですよ誰に聞いても、だって二つも三つも結論があるわけじゃないんですから、誰が何言ったかでそんなことは関係ない、だったらちゃんとちゃんと許可を取ればいいじゃないですか。

ただ私最初申し上げたようにこのことについてね、文化庁さんからはもう今年の2月今年の2月と私申し上げたじゃないですか、この紙みながら読んで

こういうことをちゃんと調べてくれということを要は何かと石垣について、および石垣及びお堀についてこれが特別史跡国宝なんだと、これをちゃんと調べてありますかと、調べてないんですかとじゃ調べて下さいねと。これについて調査した上で保存計画を作ってくださいねと。それも石垣部会の意見を付して持ってきてくださいねと書いてあるんです。そういわれているんです彼らは、それしてないじゃないですか。

誰が何言ったとかそういうことじゃないんですよ。

そうじゃなくてちゃんと手順を踏んで手続き踏んでやって作業やって許可を取ればいいじゃないですか。議論もしてもらえてないじゃないですか。

そこが問われてるって私、申し上げてるんでしょう。

話をすり替えて、すり替えるというか多分わかっておられないんだろうと思うんですけど、そんなわかってない状態だったらそれあれです、今の状態だったら未来永劫睨めっこですよ。そう言われてるんですよ、ちゃんとそういうふうに作業されたらいいじゃないですかということを申し上げてるんです。だからその本質をやっていただければいいんじゃないですかということです。

記者：ありがとうございます。関連で知事が手順というふうにおっしゃっていて、その間おそらくその名古屋市の事業がですね、手順がうまく踏めてないように推移しているように映るのは今回の契約形態が技術提案交渉方式というものをとっていて、スケジュールと予算が先に決められてそれに合わせるために知事がこの間指摘される木材の先行調達ですとか、少し先に先に進まないよう進まないといけないようなといいますか、タイプの新しい契約方式を取っている事が少し問題ではないかなと思うんですが、知事がこの技術提案交渉方式を行政体がですね特に国の許可が必要な事業において扱うことについてご所見があれば伺えればと思うんですが。

大村知事：いや別にどういう事業形態、どういう手法を使うのはそれは自由だと思います自由ですけれども、その結果出さなきゃいけませんわね。ということなんですよ。

どういうやり方やろうがこういう右から行こうが左から行こうが真っ直ぐ行こうが上から行こうが下から行こうがそれはそんなときにベストだと思う方式でやればいいんでしょう。それは新しいそのやり方についてね、とやかく言うつもりは全くありませんが、そのやったことについてしかし結果が出なかったら責任取らなければいけませんわね。出てませんね結果が。結果出してくれっていうんですよ。結果出なかったら税金使ってやってるんですよ仕事。自分の金じゃないですよ。

自分のお金でやってねああ失敗しちゃったなんかすっちゃった、スッテンテンになっちゃったまあしょうがないか、あはははって笑って済ませる話じゃないですよ。税金使ってらるんですから。

だからどういうやり方やるのも自由だと思いますが、そのやったことでですね、許可でないと、じゃあ契約しちゃった100億円の木材どうするんですか。

劣化しちゃうんですよ、ゴミになっちゃうんですかとその100億円穴があいちゃうんですかということになったら責任取らなきゃいけませんわね。

ということを上上げてるんです。我々はしっかりとそのやる途中段階とかなんとか、そういういろんなやり方はあるんでしょう確かにその許可がでる目途もないのに許可も出ないのに契約しちゃったということは軽率の誹りを免れないと思いますけれども、そのことによってですね、そのことによって、別にその小学校の子どもね何か遊び事やってるわけじゃないんですから、大人がやっているわけですよ。大人の社会人が、それも税金使って。だとしたらそれで結果が出なかった、それでもって100億円穴が開いたということになれば当然責任を取らないといけませんね。それは問われますね。それは河村さんだけでなく担当された職員も責任を問われるということは間違いありませんよ。

世の中そういうことです。その仕組みになってます。

ですからそのことをですね、だから我々責任重いということじゃないでしょうか。

ですからしっかり一つ一つ手順を踏んで足場固めながらやっていくということではない

んじゃないでしょうか。

今日ここに至るまで名古屋市さんがやってくられたことは、普通行政というのはだいたいこういうもの、こういうことの許可を取るんだったら事前に協議、協議というのは事前にその書類をもってやり取りしてこれはここですねこれ調べてくださいねこれはこれはここ直してくださいって言われたり、これこれどう思いますこの資料を作って出してと言われたその資料を作って出してまたやりとりして、じゃこれならこれでいいですねって、協議が整ったことを協議というんですよ。

それを言われている宿題課題に対する返答もなしにただ単に書類をどんと置いてってそんな協議とはいわないですよ。

ですからそういう普通の我々のやっている国だけじゃないですね国でも県でも市でもどこでも一緒ですが、やっぱり行政の相手となる普通にやる普通にやる協議をぜひおやりくださいということをお願いしているんですね私は。至極当たり前のことを申し上げているんでぜひそういう本当の意味での協議をして、是非結果を出していただければいいんじゃないでしょうか、大事なのは結果なんですよ、結果、結果出てませんよね。

結果、出ませんわねこれ。そのことをどういうふうにお考えになるかということなんですね。やあ私は一生懸命やったからいいじゃないのっていうことじゃ、そんなもん通用するわけじゃないじゃないですかそんなこと。

「いや私は許可出ると思ってたんだ」そんなもの通用するわけじゃないじゃないですか。

ぜひ結果を出していただきたい。結果を見せていただきたい出して結果を見せていただきたいと思いますよ。私みたいです、ぜひ見せてくださいということですよ。

記者：ありがとうございます。

記者：朝日新聞の井上です。ちょっと名古屋城に関連してなんですけれども先日の障害者団体の方がですね、名古屋城エレベーターつけるつけないに関して、知事から県からですね名古屋市の方に斡旋等を出してほしいというのが要望書が出たと思うんですが。

その際、知事がまだ国から許可が出てないのでそういう心配もいらないかもしれませんがねってというような一幕もあったと思うんですが、その後その斡旋指導等ですねどのようにお考えになっているか現時点でのお考えをお聞かせ願えますでしょうか。

大村知事：愛知県障害者差別解消推進条例に基づいての斡旋の要請をいただきましたのでですね我々としてはその条例に基づいてですね何らかの形、答えを出さなければいけない、この障害者団体の皆様の斡旋の要請に対してはきっちりですね、真摯にお答えしなければいけないというふうに思っております。

ただこれにつきましてはやはりこれは長い間作業されてこられたことだと思いますので、我々としてもまずはですね、まずはこの案件についてあの県の障害者福祉のその部局です

ねこの差別解消推進条例に基づくその調査会審査会ですかねその事務局は県の部局がやっていますがうちの福祉局やっていますけれども、そこがこの案件については今までこれこれをフォローしたわけではないので、まずはきちっと現状把握という下調べをやってなきゃいけませんので、こうした点をまずやっていくということだと思っております。その上で、障害者の団体こういうような斡旋要請をされた障害者団体を始めですね、関係の皆さんとしっかりと協議調整をしていきたいというふうに思います。まずはやはり現状把握の下調べをやらないといけないというふうに思っております。

記者：それからちょっと追加ですが。何かと時期的にですねいつまでにこの現状把握終了したいとかですねそういった目処っていうのはあるんでしょうか。

大村知事：この斡旋の要請についてはですね特にそういう期限が書いてあるわけではないので、まずはですねしっかり現状把握をしていきたいというふうに思っております。何かってうちの福祉局がこの案件、名古屋城の案件をフォローしているわけではありませんので、まず実態を実態調査というか実際把握をまず一生懸命やるとしっかりとやるということではないかというふうに思います。

記者：他質問はよろしいでしょうか。